

海外派遣事業報告書

(一般社団法人 ハイパフォーマンステニス研究所)



期間：2018年 7月14日～8月3日（3週間）

場所：オーストリア

（ザルツブルク・ザンクトペルテン・ボガウ）

帯同コーチ：井本善友

現地帯同コーチ：ラウル・ランジンガー

参加選手：仁木拓人・中村錬・清水悠太

目的：

- ①ヨーロッパテニスのレベルを体感する
- ②レッドクレイでテニスの幅を広げる
- ③海外の経験あるコーチの指導を仰ぐ
- ④European Tennis Baseの現地視察

概要：

竹内映二氏のツアーコーチ仲間であるラウル・ランジンガー氏が働いている、EuropeanTennisBase(オーストリア・ザルツブルク)で1週間のトレーニングをした後に、オーストリア国内で開催され



ているフューチャーズ2大会に参戦。ラウルコーチにはアカデミーでの1週間、フューチャーズの1週間に帯同してもらった。

1週目のフューチャーズでは、清水悠太（世界ランク486位）がシングルスベスト4、仁木拓人（世界ランク701位）と組んだダブルスでもベスト4に食い込む。2週目は、仁木拓人は準優勝、清水悠太はベスト4。

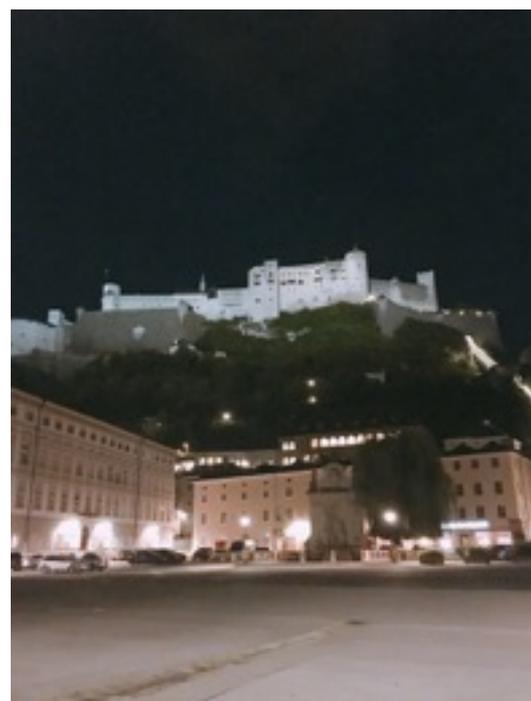


European Tennis Base (ETB) :

ザルツブルグ郊外にある同アカデミーは、大自然に囲まれた静かな場所に立地するオーストリアのオリンピック施設を利用して運営されている。陸上、サッカー、水泳、スキー、など様々な種目の選手が同施設を利用している一方、近郊の子供達の為に施設は開放されており、夏休み中の多くの子供達が朝から様々なスポーツアクティビティーを楽しんでいる。

アカデミーには、3名のコーチと1名のフィットネストレーナーが常駐し、5～8名の選手がフルタイムでトレーニングをしている。

午前と午後にそれぞれ90分のオンコート練習、1時間のフィットネストレーニングが基本的に実施される。コートには1～4名でグループ分けされ、丁寧な指導が行われる。アンツーカーが7面、ハードコートが4面（アウトドア2面、インドア2面）、フィールドトラック、室内ジム、プールなど、ほぼ全ての施設が使用可能な環境である。



スタッフ紹介：

Gerald Mild

ETBの創設者であり、PTCAのマスタープロフェッショナル、
インターナショナルゴールドメンバーのライセンスを保持。過
去には、アンケ・フーバー（ドイツ）のコーチも勤め、スイス
とドイツのナショナルコーチとして活躍。



Raul Ranzinger（イタリア）

PTCAのマスタープロフェッショナル、インターナショナル
ゴールドメンバーのライセンスを保持。
オリンピックに2大会、フェドカップ10試合に帯同し、ブラジ
ルのナショナルコーチとして女子を担当。過去には、フサロワ、
シュナイダー、ゴロビンなどを世界のトップ20に押し上げる
など、20年に渡りツアーコーチとして活躍。



Broderick Dyke（オーストラリア）

元世界35位、1986年の優勝国オーストラリアのデ杯メンバー。
ボリス・ベッカー、ケビン・カレン、ブラッド・ギルバート、
ギ・フォルジェなど、世界のトッププロを倒した経験がある。
オーストラリア、中国のナショナルコーチとしても活躍。
PTCAのマスタープロフェッショナル、インターナショナル
ゴールドメンバーのライセンスを保持。



第1週目：

時差調整もあり、ETBアカデミーでおおよそ1週間滞在し、レッドクレーでの戦い方はもちろん、支配的にプレーする為に、積極的に自ら動いて打点に入り、ボールがバウンドするまでに全ての準備を終わらせ、しっかりとスウィングをしてボールを安定させる。普段、日本でも同様のアドバイスを受けて練習しているが、レッドクレーでは準備の遅れは顕著に打つボールの質に現れる。フットワークを疎かにし、その場で打つとボールに対応することばかりに追われ、打つボールの質が下がり守備をする時間が多くなる。

レッドクレーでのテニスは基本的な事の確認を容易にしてくれ、ボールの回転によって弾んだり止まったり滑ったりと、球種の変化を有効に使うことを覚える。フラット系のボールでポイントを取ることが難しいので、色々なボールを組み合わせポイントを組み立て、ミスリスクを減らしながらポイントを取ることを学ぶことにレッドクレーは有効なサーフェイスである。



第2週目：ザンクト・ペルテン

ザルツブルグから車で2時間のこの町は、移民が多く暮らしている小さな所である。20年前にはATP大会がおおよそ10年間開催されており、マルセロ・リオス、アンディ・ロディック、ユルゲン・メルツァー、マリン・チリッチなど、多くのトップ選手たちが訪れて優勝している。施設は、アイススケート場、サッカースタジアム、陸上トラック、ビーチバレー場など、多くのスポーツが行える総合施設である。



第3週：ボガウ

オーストリア南東部に位置し、スロベニアとの国境に近い田舎町。

町と言っても、100メートルくらいの通りにカフェなどがある長閑な場所で、会場となるテニスクラブは家族経営しているアットホームなところである。

ホテルは車で15分くらい離れた隣町にあり、送迎はテニスクラブのオーナーが直々にしてくれた。

テニスコートは5面あるが、右の写真にある2面とその奥にある3面では多少バウンドの速さや足元の滑り方が違う。2面のコートは地面が硬く、コートの乾きが速いため、バウンドが速く足が滑りやすく止まりにくい。



清水選手を筆頭に、特に若い選手達には今回のような好機を継続的に与えられる環境を整えば、グランドスラムで戦える選手の輩出も近い将来起こるであろう。

